

平成19年9月25日
原子力安全対策課
(19-50)
<14時記者発表>

敦賀発電所1号機の原子炉手動停止について (原子炉再循環ポンプメカニカルシールの機能低下)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉；定格出力35.7万kW）は、第31回定期検査の調整運転中（9月1日調整運転開始）のところ、3台（A、B、C号機）ある原子炉再循環ポンプのうち、A号機の軸封部（メカニカルシール）*の第2段シール部から機器ドレンサンプに回収されるシール水の量が、通常値の範囲内ではあるが、9月9日頃より徐々に増加する傾向が認められていることから、今後の運転に万全を期すため、計画的に原子炉を停止し、当該軸封部を取り替えることとした。

また、C号機の軸封部についても、9月13日頃から、第2段シール部からのシール水量が通常値の範囲内で変動していることから、取り替えることとした。

今後、9月26日0時頃から出力降下を開始し、同日4時頃発電停止、同日9時頃に原子炉を手動停止する予定である。

これに伴い、9月下旬に予定していた定期検査の終了は延期される。

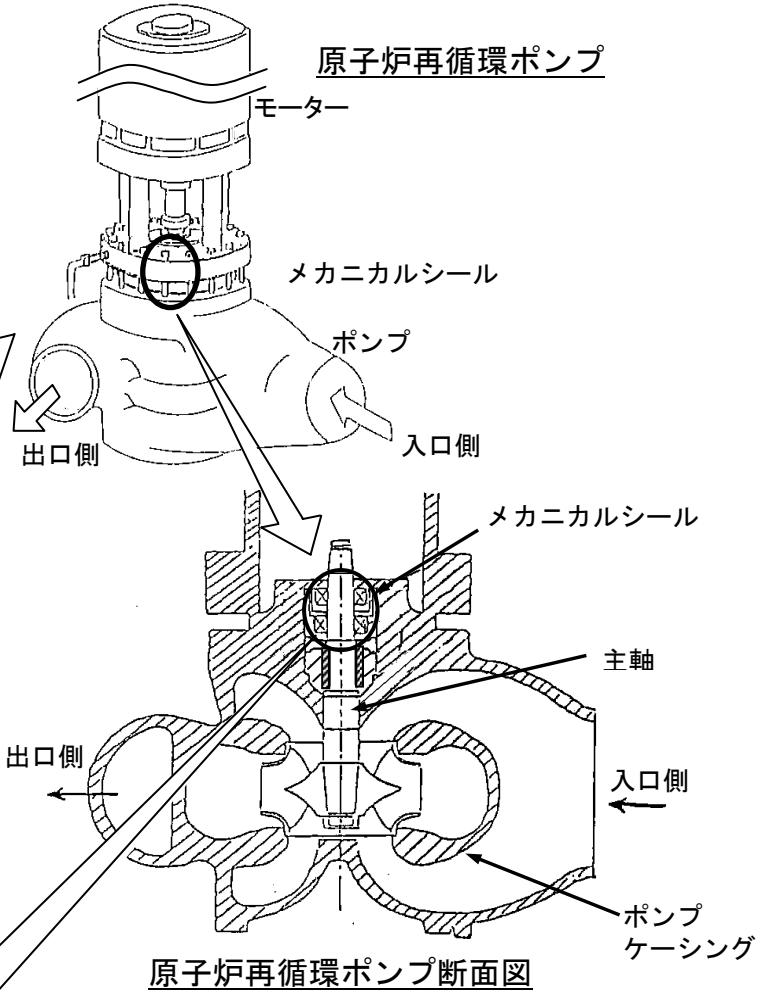
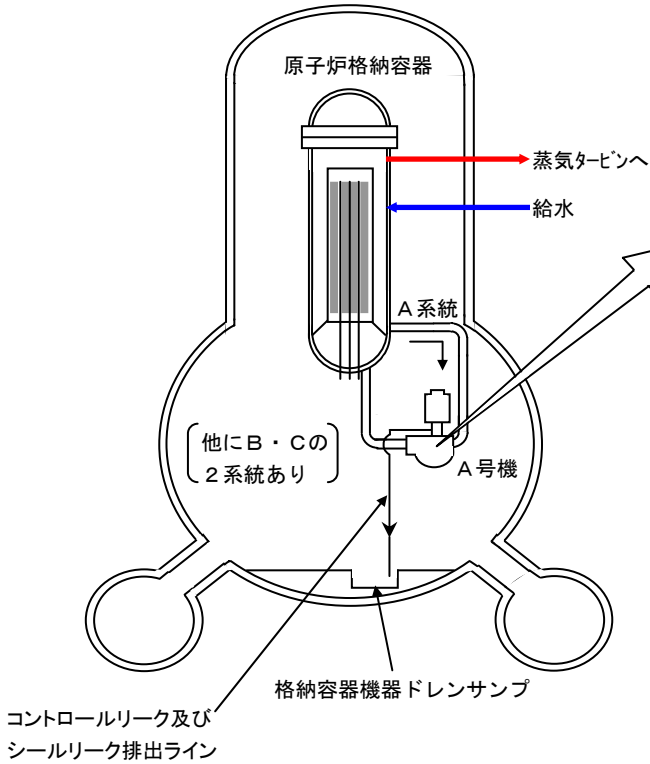
なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

*：回転するポンプの主軸に沿って、冷却水がモーター側に漏れ出ないように、専用のシール水を軸封部に注入し、ポンプ軸につながる回転リングと固定リング（ケーシング側）との間での接触部で漏れを抑制する構造となっており、第1段シール部と第2段シール部を有する。

問い合わせ先(担当：吉田)
内線2354・直通0776(20)0314

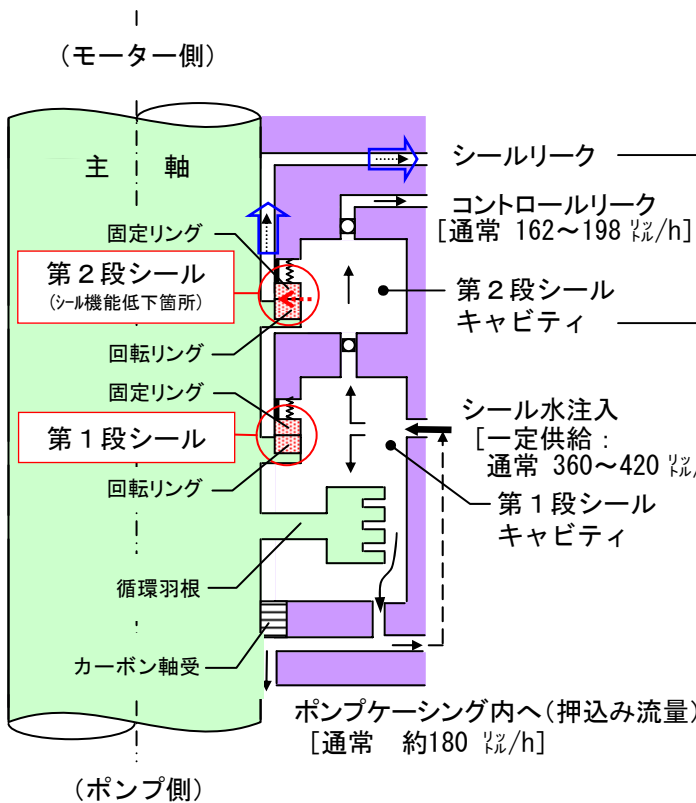
原子炉再循環ポンプメカニカルシール部状況説明図

系統概略図



原子炉再循環ポンプ断面図

メカニカルシール概念図



	A	B	C
シールリーク流量 (通常値 12ℓ/h以下)	6.5 ℓ/h (0.4 ℓ/hより 漸増)	0.1 ℓ/h (ほぼ一定)	0.6 ℓ/h (0~2.6 ℓ/hで 変動)
第2段圧力 (約3.5MPa)	3.4 MPa	3.5 MPa	3.4 MPa

シールリーク流量
漸増傾向が継続し
ていることによ
り、第2段シール部
の機能低下と判断